



トドマツ (椴松)

トドマツは高さ20~30m、太さ60~100cmになる常緑樹です。北海道の代表的な人工造林の樹種です。

トドマツは主に建築材として利用されており柱や梁などに使用されていますが、モミの木がない北海道ではクリスマスツリーとして若木が使われています。

一般にトドマツの南限は江差町東部とされていますが、その以南にも見られることから北にあったトドマツが徐々に南下しているのではと考えられています。



定山溪の森林にはたくさんのお木が生育しています。この「ふるさとの木々」では、そのうち主なものを紹介しました。皆さんのお気に入りの木や、おなじみの木はありましたか？

森林は、生き物の大切なすみかです。森林や樹木に関心をもって、この森を未来につないでいきましょう。

石狩地域森林環境保全  
ふれあいセンター所長 志鎌 睦



## 平成23年度



### ふるさとの木々



エゾマツ (蝦夷松)

エゾマツは高さ30~40m、太さで100~150cmになる常緑樹です。1966年9月にエゾマツ (アカエゾマツ含む) は「北海道の木」として北海道を代表する郷土の木、みんなに親しまれ育てやすい木として道民の投票により選ばれています。定山溪でも中山峠付近に多くみられ、幹は灰褐色で皮がウロコ状に薄くはがれます。

木材としては、トドマツと同様に建築材として広く利用されてきました。



アカエゾマツ (赤蝦夷松)

アカエゾマツは高さ30~40m、太さで80~100cmになる常緑樹です。エゾマツ同様北海道の木として選ばれています。アカエゾマツは木の皮が紫色を帯びた赤褐色で、これが名前の由来となっています。

最近は、環境緑化木として公園などにも多く植えられるようになりました。木材としては建築材として利用されていますが、ピアノやギターの響板としても利用されています。

(参考図書)  
新盤 北海道の樹木  
発行 北海道大学図書刊行会)  
森林で遊ぼう①おもしろい木の話  
発行 北海道林業改良普及協会



石狩地域森林環境保全  
ふれあいセンター  
[http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/isikari\\_fc/index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/isikari_fc/index.html)



ミズナラ (水楢)

ミズナラは高さ20~30m、太さ80~120cmになる落葉広葉樹です。北海道に自生するミズナラは材に多量の水分を含み燃えにくいことからミズ(水)ナラと呼ばれています。材は主に家具材として利用され特にヨーロッパでの評価は大変高いものがあります。種は「ドングリ」と呼ばれ古代人の食料として大変重要なものですが、野生動物にとってのも大変重要な食料源となっています。



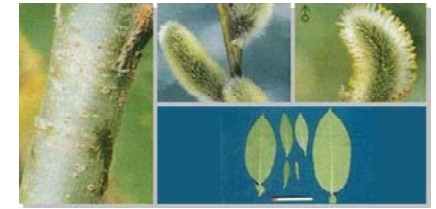
イタヤカエデ (板屋楓)

イタヤカエデは高さ15~20m、太さ60~100cmになる落葉広葉樹です。秋には葉が黄色に紅葉し皆さんの目にも良くとまると思います。カエデは葉の形が「カエルの手」に似ていることから名前が付けられたと言います。果実は翼を持ったプロペラ場に実ります。外国ではこの仲間のサトウカエデの樹液を煮詰めて砂糖を取っていることやカナダの国旗にもデザインされている事からも良く親しまれている樹種でもあります。



ダケカンバ (岳樺)

高さ15~20m、太さ60~100cmになる落葉広葉樹ですが、高い山では低木状になります。ダケカンバは名前のおり高い場所(標高600m以上)に多く見られる樺です。樹皮は灰褐色で横に大きく剥がれるのが特徴です。中山峠付近にもトドマツやエゾマツなどの針葉樹と共に白く枝が波打つように広がっている広葉樹があればダケカンバの木でしょう。



ネコヤナギ (猫柳)

高さ2~4m、太さ5cm程の落葉広葉樹です。春先に残雪の中、一番最初に花を咲かせます。春を告げる木の花です。柳の仲間は沖縄を除く全国に分布し50種以上が確認されています。北海道ではこのネコヤナギの他、バッコヤナギなどがあります。ヤナギ類はさし木と言われる方法により増やすことができる木として有名です。



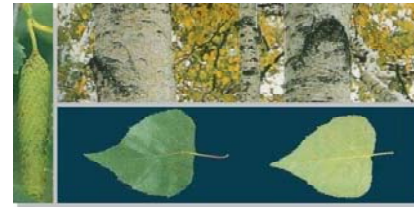
ハリギリ (針桐)

ハリギリは高さ20~30m、太さ80~100cmになる落葉広葉樹です。ハリギリは桐に似た大きな葉のトゲがある所から名前が付けられました。方言名も多く北海道ではセンノキと呼ばれています。材は桐ほどではありませんがやや柔らかく加工しやすいことから家具用材、合板材などに使用されています。ハリギリは肥沃な土地を好むことから北海道では土地の肥沃度を判定する指標種とされ、開墾をすすめたことがありました。また、春に出る若芽は山菜としても利用されています。



ヤマモミジ (山紅葉)

ヤマモミジは高さ10~20m、太さ30~50cmになる落葉広葉樹です。このヤマモミジやイタヤカエデは同じ仲間で「カエデ類」として分けられています。イタヤカエデが黄色に紅葉するのに対してヤマモミジは赤色に紅葉するのが特徴です。日本の秋を代表する樹種で紅葉といえばこのヤマモミジをイメージする人も多いと思います。庭園、公園などの木としても使用されています。



シラカンバ (白樺)

シラカンバは高さ20~25m、太さ40~60cmになる落葉広葉樹です。木の皮が白いため「白樺」と呼ばれており、近くの林などでも良く目にする樹木です。また、東北や北海道の風景のシンボルとしても広く親しまれている樹木です。木材としてはあまり利用はされていませんがお土産品に使用されたり公園の木としての利用があります。春先にとれる樹液は健康飲料水として有名です。



エゾヤマザクラ (蝦夷山桜)

高さ10~20m、太さ60~100cmになる落葉広葉樹です。桜は咲いたかと思うと一気に散ってしまうことから「咲く」という言葉に群がるの略の「う」という字がついた呼び名とされています。また、昔から品種改良が行われた木でもあり、ソメイヨシノがその代表でしょう。北海道を代表する桜はエゾヤマザクラ(オオヤマザクラ)と言われており5月下旬頃から咲き始め北国の遅い春を代表する風景となっています。

サルナシ (コクワ)



カケス (カラス科)



クマイザサ (イネ科)

